

『Mind Charging』

第 46 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 5 月 31 日

若林正恭(オードリー:芸人)の名言



『0 じゃない可能性に自分で 0 を掛けている』人間は、
生きるのにふさわしくない。

この方をこのコラムで紹介するのは予想外だったのではないのでしょうか。今回はお笑い芸人コンビ『オードリー』の、テレビでは『じゃない方芸人』などと言われている若林正恭さんの名言です。私としてはコメントやシュールなツッコミに定評がある頭の良
い方だと勝手に評価しております。今回の言葉は、テレビで見る彼の柔らかなキャラクターのイメージとは、打って変わって厳し
い言い回しの印象ですが、表面だけでなく、裏側にある『言葉の意図』を考えていきたいと思います。

生きるのに『ふさわしくない』という表現は、『生きていくってことは』という定義を考え、この世に生を受けた以上、『どう生きてい
くべきか』を考えましょうという意味があるのではないのでしょうか。国籍や肌の色が違おうとも、私たち人間は地球上で最も知性
がある『地球上の全ての生き物のリーダー』であると思います。今はまだ、人間の利益に偏りすぎていて、全ての生き物にとって
ベターな『住環境』を作ることはできていない部分があり、高いリーダーシップを発揮できていない部分もあると思います。

リーダーとして、これから良くしていくために取りかかるべき様々な内容と、それによって生まれる可能性への追求を、代表者
任せだけではなく、私たち自身が『自分ごと』として模索していく必要があります。それが自分の人生においても『他人事』のよう
に自分の可能性を追求しないのは『もったいない』ということが言いたいのだと思います。

専門ではないので本当のところはわかりませんが、野球などでは時々『ホームランを狙っているからこそヒットが打てる』と聞き
ます。テストでも『60 点でいいや』という準備で 100 点を取ることは不可能でしょう。ベストを狙うからこそ記録が伸びるのだと思
います。みなさんの自己ベストを、みなさんはまだ知りません。なぜなら全力で取り組み、自身の可能性を追求し続けていくこと
は、上限が成長によって上がることに繋がるからです。自分との勝負を心から楽しんで、自己ベスト更新を続けられるようにして
いきたいものですね。(編集委員：入試広報室 鈴木)

若林 正恭(わかばやし まさやす 1978 年 9 月 20 日～)は、日本の漫才師、お笑いタレント、司会者、俳優であり、お笑いコ
ンビ・オードリーのツッコミ担当。相方は春日俊彰。所属事務所はケイダッシュステージ。東京都中央区出身。既婚。

(Wikipedia 参照)